

Estuary 045



エスチュアリ

～いしかり砂丘の風資料館だより～

☆エスチュアリ…「河口」の意味。北海道一の大河、石狩川と日本海とが会う場所、それが石狩です。

展示資料のひみつ

リターンズ

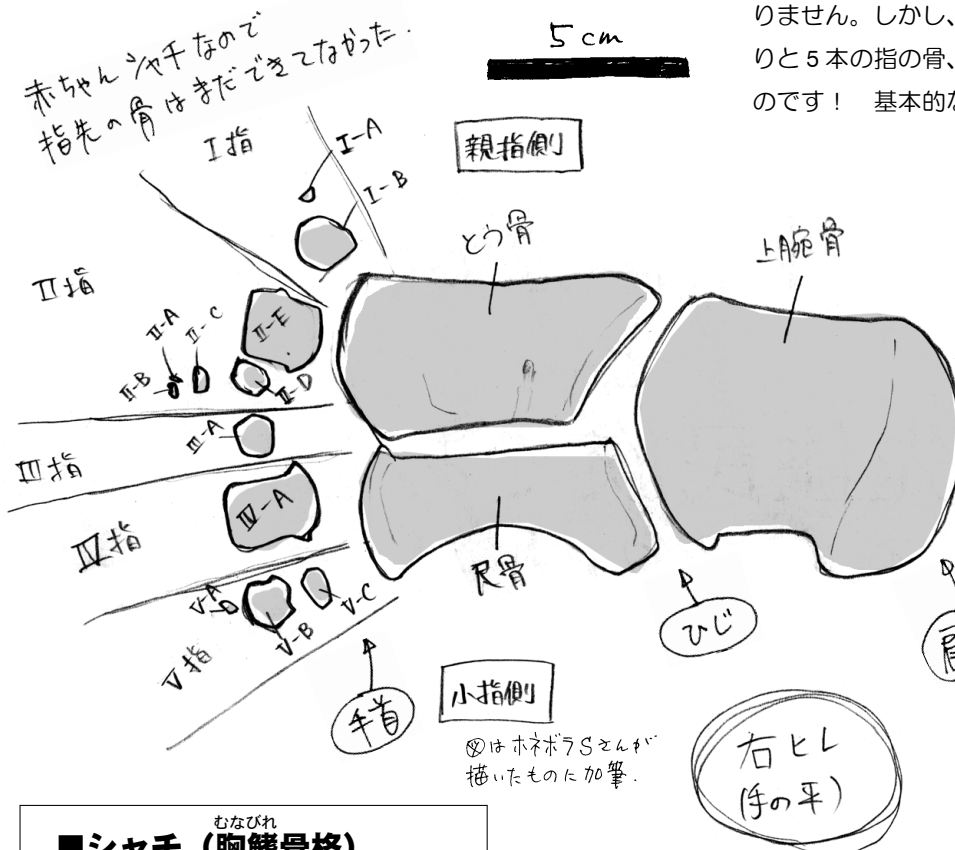
2005年冬、知床の羅臼（らうす）町で流氷に閉じ込められたシャチの群の1頭。体長271cmのオス幼獣の胸鰭（むなびれ）です。

クジラやイルカの仲間は泳ぐための3種のヒレ（背鰭、胸鰭、尾鰭）を持っていますが、手足はありません。しかし、左右の胸鰭の中には、しっかりと5本の指の骨、前腕と上腕の骨が入っているのです！ 基本的な構成は、プロポーショナルこそ

違いますが人間とほぼ同じ。クジラ・イルカの祖先は人間や犬、牛、ネズミなどと同じ哺乳類で、およそ5000万年前までは陸上を歩いていたのです。

この仔シャチは、解剖後に資料館がもらった死体を、5年間砂に埋めておいて肉を腐らせ、骨にしたものです。2011年の春から、ホネボラ（骨格標本製作ボランティア）のメンバーが、少しずつですが整理・洗浄し、砂の中でバラバラになってしまった指の骨を、試行錯誤しながら並べ直しました。◆

（志賀健司 しがけんじ）



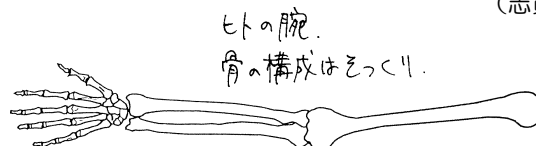
■シャチ（胸鰭骨格）

Orcinus orca

ハクジラ亜目マイルカ科

（オス、生後1年未満、体長2.7m）

2005年2月7日、北海道羅臼町で流氷に閉じ込められた1頭



じょちゅうぎく 除虫菊の夢ふたたび

夏が過ぎてのことだったでしょうか。「資料館前の花壇（現在、雑草繁殖中）を何とかしたいと思っているのですが…。除虫菊に再チャレンジしてみるのはどうですか？」というお話が職員のSさんからありました。私は過去2回、花壇で除虫菊の栽培を試したものの、思い描いていたような成果を得ていません（エスチュアリNo. 29・32・38に栽培顛末記が）。その後も草花を植えては枯らす自分に、あきらめモード全開です。なので“そうですねえ”と相槌は打つけれど、“う～ん、困ったなあ”が正直な気持ちでした。

そんな折、大日本除虫菊株式会社（金鳥）さんより、資料館に除虫菊の苗と種を頂きました。『明治25年、和歌山の上山英一郎氏（金鳥の創業者）から花畔村の金子清一郎氏が除虫菊の種を取寄せ道内で先駆けて作付けを始めた』というご縁からと聞いています。本州とは違い直植えでは越冬は難しいだろうと、職員と資料館ボランティア“いしかり砂丘の風の会”の皆さんと分け合い、室内で育てることになりました。今回は一緒に育ててくださる方たちがいらっしゃるの、安堵の気持ち。苗1株と種を少し預かりました。植える土にもこだわり、ホ

ームセンターでちょっとお高めのものを購入し、苗を植え替え種を蒔きました。苗は始めのうち葉も青々として順調に根付いたと思われたのですが、徐々にしおれ枯れてしまいました。（どうやら、苗を持ち帰った他の皆さんも同じよ



うな経過を辿ったようです。自然のサイクルなんだろう（？）種は順調に芽を出し、3～4センチの大きさまでになったものの、それからがなかなか伸びません。

“三度目の正直、除虫菊の夢よ再び”と願いながら、わが子の成長を見守るかのように毎日、植木鉢を眺めています。◆

（倉 雅子 くらまさこ）

砂丘の風の会とともに函館へ

資料館のボランティアグループ「砂丘の風の会」のメンバーと二泊二日の研修旅行に行ってきました。目的は十月一日にオープンした函館市縄文交流センターの見学、観光そのほかでした。このツアーは伊達市北黄金貝塚経由で伊達市のO先生の解説案内付きで、御高説を拝聴しつつ函館へ。函館では思いがけず国際シンポジウムのレセプション参加や翌日はシンポジウムの冒頭部分を聞くことができました。

私にとって何より、南茅部のハマナス野遺跡などで昭和49年前後に一緒に発掘していた仲間やここ数年会う事のなかった懐かしい顔ぶれに会うことができ嬉しかった。特にカナダのGさんは、紅葉山49号遺跡でY先生と一緒に会って以来で旧交を温めることができました。南茅部町での発掘は多くの経験を積ませてくれ、後の私の発掘人生に大きな影響を与えた場所、いわば原点のような場所です。

二日目はシンポジウムもそこに、交流センターへ。いかにもできてたほやほやの建物で、道の駅が併設されたユニークな博物館施設でした。展示は、南茅部で掘られた縄文時代の遺物を中心に展示がされていたが、同時に旧戸井町の貝塚の資料もあり、海辺の縄文人の生活が良く分かる工夫がされていて、好印象でした。ただ建物が迷路のようで、展示室も全体に薄暗いのが気になりました。賛否両論あるのですが、資料館は見てもらった点で、だと私は思うので気になった点です。とはいえ中空土偶を含め北海道の円筒土器文化圏を代表する一級資料が公開されたのは、かつて発掘に携わった一人としても大変うれしに喜んで帰ってきました。◆

（石橋孝夫 いしばしたかお）



札幌の本屋さんで海辺が出現!? ウミベオロジー・ウミベオグラフィー

昨秋、札幌の書店に石狩の海辺が出現しました。
というのは紀伊國屋書店札幌本店（札幌駅西口）で開催した、

トークイベント（11/3開催）
「ウミベオロジー／石狩海辺学」

テーマ展（10/29～11/3開催）
「ウミベオグラフィー／石狩海辺博物学」

のこと。海辺は、海と陸との境界線であり、境界線では、いろいろな“もの”が会い、さまざまな“事件”が起きます。そんな「海辺の出会い」をテーマにした、3つのショートトークと展示。「いしかり館ネットワーク」として、資料館と石狩浜海浜植物保護センター、市民図書館、市公民館が連携しての開催です。

トークイベント「ウミベオロジー」では、海浜植物保護センターの内藤華子さんが海浜植物、資料館からは志賀が漂着物の話をしたほか、小樽市総合博物館の学芸員、大鐘卓哉さんをゲストに招き、石狩湾で見られる蟹気楼を動画を交えて紹介していただきました。富山で有名な蟹気楼ですが、多くの人は石狩湾でも発生することを知らなかったようで、アンケートにも驚きの声がたくさん記されていました。

6日間開催した展示「ウミベオグラフィー」では、アオイガイやヤシの実、外国のボトルなどの石狩浜の漂着物などの実物のほか、海浜植物や石狩浜の歴史に関するパネル、蟹気楼の写真を展示。多くの札幌の人々に石狩の海辺を見ていただきました。◆



蟹気楼を熱く語る大鐘さん。蟹気楼の研究で2011年、日本気象学会の奨励賞を受賞しています！



会場は大書店のロビー。80人も来ていただき、立ち見も出るほど。



本の売り場の一角が展示会場。

めざせ！

いしかりはかせ

このたび資料館では、お子さん向けに「しりょうかんたんけんクイズ」を始めました。このクイズは、館内をまわりながら問題に答えて「いしかりはかせ」の称号を目指します。



実は「いしかりはかせ」には、ただクイズに答えるだけではなりません。「いしかりはかせの巻」という巻き物を読んで修行(?)

してもらいます。修行を終えた頃にはきっと立派な「いしかりはかせ」になっているはずですよ。「いしかりはかせ」の認定証もプレゼントします。

資料館の展示物の解説などは、小学生のお子さんには少し難しいかな、という内容がほとんどです。このクイズを通して、石狩のことをもっと知っていただき、資料館を楽しみながら見ていただければ嬉しいなと思っています。

もちろんお子さんだけでなく、大人のお客様も是非チャレンジしてみてくださいね。クイズはいつでも挑戦できます。寒い日が続きますが、みなさんのご来館をお待ちしています。◆

（木戸奈央子 きどなおこ）

1月～3月の講座・展示

野外講座

石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物

冬の季節風は、いろいろな物を海から運んできます。そんな浜辺の漂着物を観察・採集し、その正体や起源をみんなで考えます。

- 日時 2月26日(日) 09:00～13:00
- 場所 砂丘の風資料館～石狩浜
- 対象 小学4年生～大人
(小学生は保護者同伴で)
- 定員 20人(先着順)
- 参加料 無料
- 持ち物 防寒着、長靴、手袋、ビニール袋など
- 申込 2/1(水)～2/24(木)の間に電話で資料館(0133-62-3711)へ

2月
開催

テーマ展

資料館のお宝2012

資料館には、市民のみなさんからいろいろな「もの」が持ち込まれることがあります。これらは、骨董屋に持っていったとしても「鑑定団」に見てもらっても高い値段がつくとは限らないけど、石狩にとっては自然や歴史を記録する大切な“お宝”。

この1年間、みなさんから寄贈していただいた資料・標本の中からピックアップしてご紹介します。

- 日時 12月25日(日)～3月25日(日)
- 場所 いしかり砂丘の風資料館

※資料館の入館料が必要です。



大黒天木像



恵比寿木像

めざせ! いしかりはかせ しりょうかん探検クイズ

館内をまわりながら、クイズに答えて「いしかりはかせ」を目指そう!

クイズと修行(?)をして立派な「いしかりはかせ」になった人には「認定証」

をプレゼント!

クイズはいつでも挑戦できますよ。詳しくは、資料館の受付で聞いてみよう!

(3ページも読んでね!)



クマが
目印
だよ!

■石狩市広報に連載「いしかり博物誌」

- ☞第115回: カラスの「貯食」行動(2011年9月号)
- ☞第116回: 林でプール?(2011年11月号)
- ☞第117回: 恵比須大黒おめでたや(2012年1月号)

***** 編集後記 *****

人と人が出会えば会話が、男と女が出会えば愛?が、国と国が出会えば戦争が…。境界線では、いろいろな“もの”が出会い、“事件”が起きます。海辺は海と陸の境界線。さらには空も接しているし、石狩の場合は川(石狩川)も交わります。海・陸・空・川—。その会話に耳を傾ける「ウミベオロジー(石狩海辺学)」、定着させようと密かに企んでいます!(け)

いしかり砂丘の風資料館

- 開館時間 午前9時30分～午後5時00分
- 休館日 毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始
- 入館料 300円(中学生以下は無料)、
団体料金240円(15名以上)
- 交通 中央バス札幌ターミナルより石狩行き乗車、
「石狩温泉」下車、徒歩1分
(石狩温泉「番屋の湯」となり)

エスチユアリ No.45

2012年1月21日発行

いしかり砂丘の風資料館

〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

TEL/FAX: 0133-62-3711

bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/>